

乳幼児がいる母親のための「私」ケア事業

【団体名】NPO 法人子育てママ応援塾 ほっこり～の

【担当部署】健康福祉部 福祉・児童センター

【提案型】自由テーマ

1. 事業の目的

コロナ禍における乳幼児を持つ母親たちの孤立を防ぐ。産後うつ予防や虐待防止が目的

2. 実施内容

○コロナ禍における0～2歳児の母親のための「私」ケア事業（託児付き！）

日 時：2023年度 前期（6/20、6/27、7/4、7/11）／後期（11/14、11/21、11/28、12/5）

会 場：蕨市福祉・児童センター

参加者数：各期4回×12組（10組予定を2組増やして実施）

内 容：1回目：助産師ママによる心のケア／2回目：理学療法士ママによるボディケア

3回目：キャリアコンサルタントママによるワークライフバランス

4回目：モヤモヤ解消されたかな“振り返りの会”

完全託児付きで集中して参加いただきました



令和5年度 蕨市協働事業報告書

○《子育てミニフェス》

蕨市子育てミニフェスタ 2023 ～地域みんなで子育てる蕨へ～

日 時：2023年11月7日（火） 10:30～15:00

会 場：文化ホールくるる

参加者数：約100名

内 容：ハイハイレース、赤ちゃん連れ防災、プロによるサックス二重奏、自治体ブース設置



○多世代交流事業「頑張らない離乳食講座」（協力・蕨市母子愛育会）

日 時：2024年3月6日（水） 10:30～12:00

会 場：旭町公民館 1階

参加者数：12組（10組予定を2組増やして実施）

内 容：離乳食講座や先輩ママとの多世代交流、また参加者同士の交流。

3. 役割分担

団体：講座企画運営、託児、子育てミニフェスタ 2023 企画運営、チラシ制作に関するこ

市：市報及びチラシによる広報、会場確保、子育てミニフェスタ 2023 自治体ブース調整に関するこ

4. 事業費と主な支出内容

- (1) 事業費：総額 501,692円（うち蕨市協働事業補助金 487,000円）
(2) 支出の主な内容
報償費（講師謝礼）、報償費（託児保育士）、印刷製本費（チラシ作成）、会場代（くるる多目的ホール）等

5. 協働による効果

母親たちが子どもと離れて、専門家のファシリテーターのもと、自分自身の心と体をケアする大切さを学び、交流の中で話をしながら涙される光景が多々見られた。産後うつ予防に役立ったと考えられる。 今年度は令和3年度から行ってきた蕨市政策提案協働事業の集大成として、11月7日に「地域みんなで子育てする蕨へ」をスローガンに、自治体と民間団体の協働による『蕨市子育て支援ミニフェスタ2023』を、未就園児をもつ親子を対象としたお楽しみイベントを開催し、多くの親子連れに「子育てしやすい蕨市」とPRできたことに加え、市の子育て関連部署に繋げることができた。

6. その他の成果・感想・今後の課題など

【団体より】

コロナ禍における母親たちの孤独は予想以上であった（里帰り出産不可など）。また、不妊治療や帝王切開の率も高く（帝王切開は参加者の約半数）、産後の痛みを分かち合ったり、治療の末に授かったのに可愛いと思えないというような、人にはなかなか言えないような話をみんなで共有した。「自分だけではない」と思えて、安心したというお声をいただいた。頑張り過ぎない、頼っても良いというお話をさせていただいた。3年間の集大成として開催した『蕨市子育て支援ミニフェスタ2023』だけは、市の子育て関連部署や関連団体の協力を頂き実施できたことは大きな成果であったと考えている。今後は、さらに地域サポーターの繋がりを増やしていく活動に力を入れていきたい。

【担当課より】

福祉・児童センターでは主に乳幼児を対象とした事業を展開しているが、今回、乳幼児を持つ母親を対象とした事業を協働で実施できたことで、新たなニーズの掘り起こしに繋がった。また、チラシを通じて幅広く周知を図ったこともあり、福祉・児童センターに初めて来られた参加者もあり、当センターを知ってもらう良い機会となった。